

令和元年度健康増進施策関連事業 (取組) の実施状況 (訂正版)

- ・令和元年度進捗状況報告書の中より, 実績値(成果)に大きな変化が見られた事業を中心に記載しております。
- ・右下にスライド番号を記載しております。
- ・この資料は, 令和2年7月2日時点で作成しております。

【分野】栄養・食生活（効果あり・改善）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
特定保健指導 《保険年金課》 シートP3	特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し、6か月間の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。	前年度より 特定保健指導実施率 6.0ポイント上昇 <small>※特定保健指導は、平成30年度のデータ値より分析</small>	国が示す「標準的な健診・保健指導プログラム」に準じて実施しており、平成30年度改訂に準拠し、対象者一人当たりの指導期間を従来の6か月から3か月に変更したこと、集団健診の保健指導は健診当日と健診結果が出揃ってから結果説明日に分割して実施する方法を導入し、健康への関心が高い特に保健指導を開始できたことが要因。
へるすアップ相談 《健康増進課》 シートP4	骨粗しょう症検査、柏市健康診査の結果、生活習慣改善の必要なかに、保健師・管理栄養士が個別相談を行い、個人の生活に即した具体的なアドバイスをを行う。	前年度より 骨粗しょう症相談利用率 1.3ポイント上昇	相談利用率向上のため、骨粗しょう症検査・柏市健診受診1～2か月後に、対象者にへるすアップ相談参加勧奨通知を送付。 令和元年度は、初回相談2～3か月後に電話フォローを実施。初回相談で対象者が立案した食事・運動計画をもとに、実施状況の聞き取りを実施。
健康づくり普及啓発事業 《健康増進課》 シートP5	イベント等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。	前年度より 啓発実施者数 (栄養・食生活) 283人増加	栄養に関しては、バランスの良い食生活や食育レシピ、減塩に関するリーフレットを作成し、啓発を実施した。「かしわ健康メッセージ」「モラージュママ」等また、民間との協働で健康情報を定期的に発行し啓発を実施。

【分野】栄養・食生活（悪化・低下）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
学校給食提供事業 （小学校） 《学校保健課》 シートP1	給食を生きた教材として、児童を対象に適切な摂取量や、成長に必要な栄養分を習得する。 また、養護教諭と連携し、咀嚼の重要性や栄養バランスの取れた食事、栄養と運動の両面を意識することで、健康な生活習慣を習得するための食育事業を行う。	前年度より 肥満度20%以上の児童の割合 0.3ポイント悪化	定期健康診断において、肥満度20%以上の児童の割合が増加した。 学校栄養職員・栄養教諭と養護教諭が連携し、健康な生活習慣を習得するための食育を行う。
学校給食提供事業 （中学校） 《学校保健課》 シートP2	給食を生きた教材として、児童を対象に適切な摂取量や、成長に必要な栄養分を習得する。 また、養護教諭と連携し、咀嚼の重要性や栄養バランスの取れた食事、栄養と運動の両面を意識することで、健康な生活習慣を習得するための食育事業を行う。	前年度より 肥満度20%以上の児童の割合 1.2ポイント悪化	定期健康診断において、肥満度20%以上の生徒の割合が増加した。特に、中学生男子の軽度肥満（肥満度20～30%）の増加が見られ、食生活だけでなく運動量も含めた生活様式についての多様化が考えられる。
母子保健食育 《地域保健課》 シートP7	<ママパパサロン・栄養> 妊婦とそのパートナーを対象に、講話やグループワークを通じた妊娠期の食生活支援を行う。 <離乳食教室、母と子のつどい、8か月児相談、2歳の歯☆ピカランド、幼児健康診査> 乳幼児期の保護者を対象に、講話や栄養相談を通じた食生活支援を行う。	前年度より 3歳児健康診査における主食・主菜・副菜をそろえた朝食の割合 1.0ポイント低下	3歳児健康診査における主食・主菜・副菜をそろえた朝食の割合は横ばい。主食・主菜・副菜をそろえたバランスの良い食習慣の啓発、多様な食習慣に配慮した食に関する支援を行う。

【分野】運動・身体活動（効果あり・改善）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
<p>フレイル予防事業 （ロコモフィットかしわ） 《地域包括支援課》 《保険年金課》</p> <p>シートP9</p>	<p>市民の身近な地域において、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の予防に関する座学と運動指導を行う。講座終了後は、自主グループとして継続的に活動できるよう支援を行う。 （40～64歳の国保被保険者も含む）</p>	<p>前年度より 参加者数 299人増加</p> <p>※自主グループで活動している人を含む。</p>	<p>毎年講座終了後に自主グループが立ち上がり、ロコモ予防に継続的に取組む市民の増加につながっている。 事業の効果とし、全てのコミュニティエリアで自主グループが立ち上がっている。 令和3年度以降は、市主催事業である本講座は終了し、自主グループ活動の支援継続や通いの場等での地域でのフレイル予防活動を、地域包括支援センターと連携し推進する。</p>
<p>フレイル予防事業 《地域包括支援課》</p> <p>シートP10</p>	<p>主に高齢者に対するフレイル（介護）予防事業のうち、身体活動をテーマとしたプログラムについて、リハビリテーション専門職、運動トレーナー等が講座を開催する。</p>	<p>前年度より 介護予防センター主催の教室参加者 508人増加</p>	<p>令和元年度は、介護予防センターと地域包括支援センターの共催によるフレイル予防講座を2地域で実施。 介護予防センター主催の介護予防講座は、地域への出張講座の増加により、参加者の増加につながっている。</p>
<p>スポーツ教室・講習会 《スポーツ課》</p> <p>シートP13</p>	<p>スポーツへの参加を促進するため、市主催の事業の他スポーツ協会や指定管理者によるスポーツ教室を開催する。</p>	<p>前年度より スポーツ教室・講習会の参加人数 1,911人増加</p>	<p>平成28年度から市民参加体験型のスポーツイベントを開催し、スポーツを「する」きっかけづくりの場を提供している。指定管理者による自主事業では、「柏市スポーツ施設情報誌」やホームページ、広報などの媒体を使い周知を図っている。令和元年度は、著名な選手を招いた市民参加型のスポーツイベントの実施や、指定管理者による自主事業の種類が増えたため、参加人数が増加した。</p>

【分野】運動・身体活動（悪化・低下）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
補助金の交付 《スポーツ課》 シートP13	スポーツ団体に対し補助金を交付することで、スポーツ事業の充実を図る。	前年度より 交付団体の市民大会などの参加者数 770人減少	補助金の交付により、交付団体主催による市民大会等の事業が開催され、交付団体の事業の充実が図られている。 なお、新型コロナウイルスの影響で、令和2年1月～3月の大会や活動が縮小され、参加者数が減少している。
学校体育の促進関連事業 《指導課》 シートP14	「新体力テスト」の実施 市内小中学校児童生徒・握力等計8項目	前年度より 全国平均を上回る項目 7.6ポイント悪化	小中学校全校にて体力テストを実施した。国や県の水準から下回る種目が多くなっている。

【分野】休養・こころの健康（効果あり・増加）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
本人・家族の相談・訪問支援等 《保健予防課》 シートP18	<こころの健康相談> 精神科嘱託医や職員によるこころの健康に関する相談。	前年度より職員による面談や訪問（延数） 225人増加 電話相談 298人増加	精神科嘱託医や職員によるこころの健康相談を実施し、関係機関や連携を図りながら本人や家族の支援を行った。
乳児家庭訪問全戸訪問事業 《地域保健課》 シートP21	市内の乳児がいる全家庭を訪問。生後3か月までに保健師・助産師が新生児訪問を実施し、育児ストレスが高いと思われる方への訪問等の継続支援を実施。	前年度より乳幼児家庭全戸訪問事業面談率 0.9ポイント上昇	保健師、助産師による新生児訪問等において、産後うつ等こころの問題を抱える産婦を早期発見し、早期支援に繋がった。
不登校児童生徒の支援事業 《児童生徒課》 シートP22	市内の小中学校で、何らかの要因による不登校状態の児童生徒を対象に行う支援事業。本人の自立を促すとともに、学校復帰を目指すため、学習支援や訪問活動。	前年度より教育相談件数（電話） 463件増加 教育相談件数（来室・訪問） 417件増加	教育相談も電話、来室・訪問ともに件数が増え、より多くの保護者の要望に応じたり、対応したりすることができた。

【分野】喫煙（効果あり・増加）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
タバコ対策 《健康増進課》 シートP23 シートP28	柏ノースモッ子作戦協議 会の実施 柏ノースモッ子作戦出張 講座 乳幼児保護者向けリーフ レット作成	前年度より 出張講座実施校数 4校増加	柏ノースモッ子作戦出張講座については、平成30年度に市立小中学校を対象とした調査で、出張講座を実施していない学校でも『薬物乱用防止教室』としてたばこに関する教育が行われていることを確認した。 このため、令和元年度からは「子どもたちに携わる大人たち」にも出張講座の対象者の枠を広げ、保護者会や研修会等でも活用してもらえるよう事業の拡大を図った。
健康づくり普及啓発事 業 《健康増進課》 シートP26	イベント、健康教育の中 で運動、食、タバコ等健康 に関する啓発を実施。一 般市民を対象とし、幅広 いテーマについての啓発 を行う。	前年度より 啓発実施者数 （喫煙） 1,177人増加	令和元年度は各種イベントにて幅広い内容の健康啓発を実施し、多くの市民に健康情報を発信することができた。 かしわ健康メッセージ」「モラージュママ」等また、民間との協働で健康情報を定期的に発行し啓発を行った。
ポイ捨て等防止事業 《環境サービス課》 シートP26	啓発看板・路面シール・ 横断幕の設置等の啓発を 行い、路上喫煙等防止を 推進し、ぽい捨てごみを 減少させる。	前年度より 過料徴収件数 79件増加	平成30年度よりシルバー人材センターからパトロール補助員を雇用。パトロール班が2班になった結果、2年続けて過料徴収件数が増加した。

【分野】 飲酒

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
本人・家族の相談・訪問支援等 《保健予防課》 シートP30	<こころの健康相談> 精神科嘱託医や職員によるこころの健康に関する相談。	前年度より アルコール相談（職員による面談や訪問） 23件減少 アルコール家族教室 参加者延数 9人増加 酒害教室参加者延数 16人減少 HAPPYプログラム参加者延数 8人減少	特定健診等でアルコールによる健康障害の情報提供やAUDIT(飲酒習慣スクリーニング)を実施した。 職員による相談や出前講座を通して、酒害についておよび自助グループの効果等を広く伝え、必要な方が相談や教室等につながれるよう、周知した。 アルコール問題早期介入として、減酒プログラム「HAPPYプログラム」を実施。令和元年度は日曜開催し、市民の利便性良い会場で実施。自衛隊を対象に「HAPPYプログラム」を実施。

【分野】 歯・口腔の健康（効果あり）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
<p>母子歯科保健事業 「歯っぴいカムカムか しわっ子作戦！」 《地域保健課》</p> <p>シートP33</p>	<p>小学校、中学校の児童、生徒を対象に食生活を含むむし歯、歯周病予防の啓発及び歯みがき指導 依頼に応じて、保護者へもむし歯、歯周病予防の啓発を実施</p>	<p>前年度より 12歳児の健歯者率 2.0ポイント上昇 12歳児のDMF歯 数 0.26本減少</p>	<p>むし歯が増加する中学年と歯周病予防が必要な高学年をターゲットとしたことで新たな学校からの依頼もあった。むし歯の罹患率は減少傾向ではあるが歯肉炎の有する者の割合は横ばいであるため、啓発を強化していく。</p>
<p>健康づくり普及啓発事業 《健康増進課》</p> <p>シートP34</p>	<p>イベント、健康教育等の中で運動、食、タバコ等健康に関する啓発を実施。一般市民を対象とし、幅広いテーマについての啓発を行う。</p>	<p>前年度より 啓発実施者数 (歯・口腔の健康) 429件増加</p>	<p>令和元年度は各種イベントにて幅広い内容の健康啓発を実施し、多くの市民に健康情報を発信することができた。 かしわ健康メッセージ」「モラージュママ」等また、民間との協働で健康情報を定期的に発行し啓発を行った。 歯科健診推進や口腔ケア等に関するリーフレットを作成した。</p>

【分野】糖尿病・循環器（効果あり・増加）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
<p>柏市健康診査 《健康増進課》</p> <p>シートP41 シートP44 シートP46 シートP49</p>	<p>40歳以上で、無保険の生活保護受給者を対象に、特定健診と同内容の健診を指定医療機関にて実施。 対象者に個別通知，希望者は申し込み。</p>	<p>前年度より 受診者数 44人増加</p>	<p>生活支援課と健康管理支援事業担当者会議を年に3回開催し，当健康診査の実施方法について等情報交換した。 生活支援課ケースワーカーの個別の受診勧奨や受診勧奨通知発送の効果により受診者数は増加している。 令和元年度は，健康管理支援の向上と医療費削減を目的とし受診者数の向上のため，令和2年度より申込制を一部廃止することを決定した。</p>

【分野】糖尿病（悪化）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
<p>柏市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導 《保険年金課》</p> <p>シートP40 シートP43</p>	<p>＜特定健康診査＞ 40歳以上の柏市国保加入者を対象に，生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>＜特定保健指導＞ 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し，6か月間の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<p>前年度より メタボリックシンドローム該当者の割合 男1.0ポイント上昇 女0.6ポイント上昇</p> <p>メタボリックシンドローム予備群の割合 男0.7ポイント上昇 女0.3ポイント上昇</p> <p>HbA1cが6.5%以上の割合 0.4ポイント上昇</p>	<p>令和元年度に「人工知能（AI）を活用した特定健診受診勧奨事業」を開始し，特定健診受診者が増加している。5年連続受診者と令和元年単年度受診者を比較すると，5年連続受診者の方が単年度受診者よりもメタボ該当率，予備群該当率が低い。受診勧奨によって，単年度受診者が増加したことが要因と考えられる。またHbA1cの年代別の平均値は，男女ともに年代が高くなるにつれて上昇し，6.5以上の割合も60歳代，70歳代になると増加している。特定健診の受診者の年齢が高くなっていることが要因と考えられる。</p>

【分野】循環器（悪化）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
<p>柏市国民健康保険特定健康診査・特定保健指導 《保険年金課》</p> <p>シートP45 シートP48</p>	<p>＜特定健康診査＞ 40歳以上の柏市国保加入者を対象に，生活習慣病予防を目的とした健診を実施。</p> <p>＜特定保健指導＞ 特定健診の結果よりメタボリックシンドロームのリスクのある対象者を抽出し，6か月間の生活習慣改善のための特定保健指導を実施。</p>	<p>前年度より LDLコレステロールが140mg/dlの割合 男1.1ポイント上昇 女1.0ポイント上昇</p> <p>収縮期血圧が140mmHg以上の人の割合 男0.2ポイント減少 女0.5ポイント上昇</p> <p>拡張期血圧が90mmHg以上の人の割合 男0.3ポイント減少 女0.7ポイント上昇</p>	<p>LDLコレステロールが140mmHg以上の人の割合を年代別みると男女共に60歳代，70歳代から大きく増加し，年齢と共に増加していることから受診者の年齢が高くなっていることが悪化の要因と考えられる。一方でLDLコレステロールの平均値を見ると女性では50歳代から高くなり，70歳代で低くなるが，男性では60歳代から低くなっている。脂質に関する内服治療をしている割合が男女ともに60歳代から増加していることが要因と考えられる。</p> <p>血圧に関しても同様の傾向であり，収縮期血圧，拡張期血圧共に男女とも平均値は60歳代以降から高くなるが，血圧に関する服薬治療をしている者が60歳代から増加していることが要因と考えられる。</p>

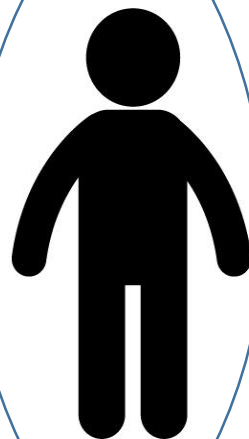
【分野】がん（一部悪化）

事業名・取組名 《担当部署》	内容	取組の 成果	取組や成果の要因
がん検診 《健康増進課》 シートP52	「がん検診重点健康教育及びがん検診の実施のための指針」（厚生労働省）に基づき、胃、大腸、結核・肺、乳、子宮の各がん検診の実施。	前年度より 胃がん検診 2.7ポイント上昇 大腸がん検診 0.6ポイント減少 子宮頸がん検診 1.2ポイント減少 乳がん検診 7.4ポイント上昇 結核・肺がん検診 0.5ポイント減少	平成30年度より開始した胃内視鏡検査の受診者比率を増加させるため、内視鏡検査実施医療機関に内視鏡検査を勧奨するポスターを掲示したところ、従来から実施している胃エックス検査より胃内視鏡検査の方が上回って実施できている。 乳がん検診は平成30年度より受診頻度を隔年とし、令和元年度より乳がんあいだの年検診を開始し、滞りなく実施した。

【分野】全体

健康に関する情報発信

- ・広報
- ・ホームページ
- ・TwitterなどのSNS
- ・個別通知
- ・駅前や近隣センター等の
公的施設における掲示
- ・民間企業や外部団体との
連携・協働
- ・健康講座



健康に関する環境整備

- ＜ハード面＞
- ・近隣センター・体育館等施設
や道路等の設備
- ＜ソフト面＞
- ・事業の実施
- ・健康促進イベントの実施
- ・ボランティア、自治会、NPO
等による活動や、子どもから
高齢者まで幅広い世代が活
躍できる活動の場の提供

市民の健康行動